

インフルエンザについて（第10報）

今週は2014年の第9週です。毎週月曜日ごとに推定患者数は増加を続けていましたが、第7週、第8週、9週と3週連続して前週の推計値を下回っています。ただ、第8週と第9週（第9週は水曜日まで）とを比較してみると、火曜日と水曜日は第9週の方が前週の推計値を上回っており、今後B型インフルエンザの流行によって患者数は再度上昇するかまたは横ばいとなる可能性があります（図1）。1週間ごとの累積の推定患者数をみると、第5週は約115万人、第6週は約105万人、第7週は約90万人、第8週は約85万人であり、第7週から第8週にかけてはそれ程減少していません（図2）（図1、図2共にhttp://www.syndromic-surveillance.net/yakkyoku/yakkyoku_nippou/2013_14/index.html参照）。

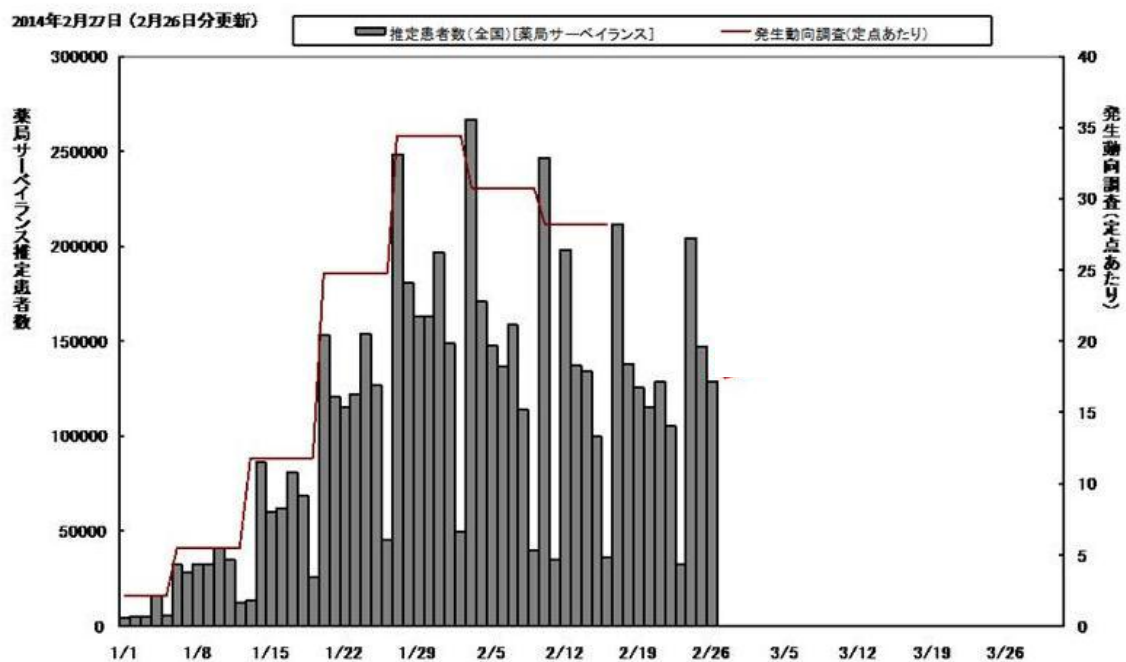


図1. 薬局サーベイランスによるインフルエンザの推計受診患者数の日別推移（2014年1月1日～2014年2月26日）

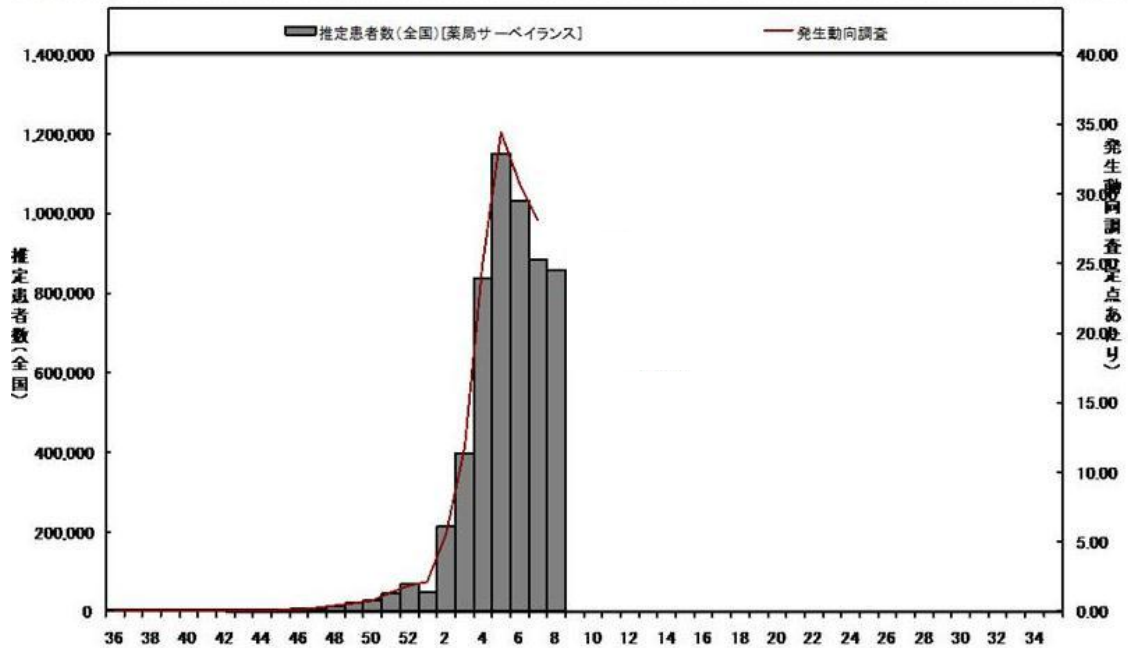


図2. 薬局サーベイランスによるインフルエンザ推計罹患者数の週別推移（2013年第36週～2014年第8週）

インフルエンザウイルスの日本国内の患者由来検体からの検出状況ですが、昨年9月からの、今シーズン（2013/2014年シーズン）を通しての累積の検出数（3024検体）ではインフルエンザA/H1N1pdm2009（以下A/H1N1pdm）が46.7%と最多を占めており、次いでA/H3N2（A香港）亜型（28.6%）、B型（24.6%）の順となっています（図3）。一方、直近の5週間ではA/H1N1pdm（56.2%）、B型（26.2%）、A/H3N2亜型17.5%の順であり、今後はB型の検出割合が増加してくるものと予想されます。

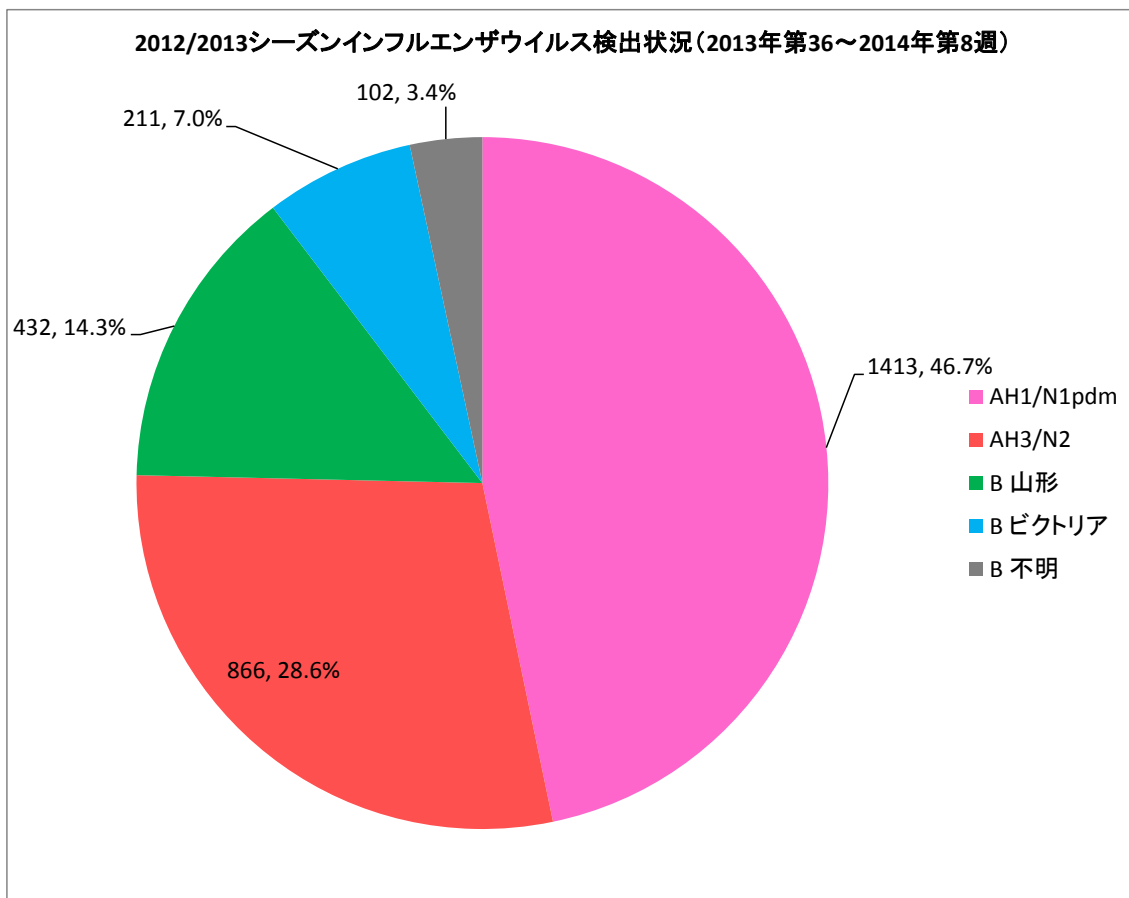


図3. 今シーズンのインフルエンザウイルス検出状況(2013年第36週～2014年第8週)
 (国立感染症研究所感染症疫学センターホームページ：
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html> 参照)

今シーズンのインフルエンザの流行は本格化してからはインフルエンザ A/H1N1pdm2009が流行の中心であり、例年と同様に2014年第5週が流行のピークとなり、その後は患者数の減少が続いています。A型インフルエンザの発症者数は減少していきませんが、B型インフルエンザの流行はまだ続きますので、3月中旬頃まではインフルエンザの流行には注意が必要です。

2014年2月27日
 大阪府済生会中津病院ICT
 安井 良則